

# 委託事業実施内容報告書

## 平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

### 【日本語指導者養成】

受託団体名 財団法人 仙台国際交流協会

#### 1 事業の趣旨・目的

仙台市の人口は約100万人、そのうち外国人は約1万人である。在住資格別では留学が多く、ついで永住者となっているが、留学生の家族や日本人との結婚などによって来日している外国人も少なくない。様々な状況とニーズを持つ外国人の日本語学習をサポートするため、当協会では日本語講座の開講の他マンツーマンでの日本語学習サポートを行っている。

日本語学習支援の人材育成については、日本語ボランティアを育成するための講座や日本語ボランティアのスキルアップ研修会を実施してきた。より日本語学習者のニーズに対応できる日本語ボランティアの育成を目指して、昨年度より事業全体の見直しを行っている。

東日本大震災発生後に明らかとなった言葉の壁による生活への支障等を踏まえ、本研修会は、今後生活者としての外国人に対して、どのような日本語学習サポートが必要になるかを考える機会と日本語学習をサポートするためのスキルアップを目的とし実施する。

#### 2 運営委員会の開催について

##### 【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
平成23年 7月12日	仙台国際センター	市瀬智紀 高橋亜紀子 猪狩哲郎 高橋牧子 志野和子 佐藤剛 須藤伸子 高平尚子 佐藤麗	①具体的な講座内容 検討  ②募集方法  ③講座・運営委員会 日程の確認	講座の内容、検討確認。募集人数や募集方法についての検討。
平成24年 1月24日	仙台国際センター	市瀬智紀 高橋亜紀子 猪狩哲郎 高橋牧子 志野和子 佐藤剛 須藤伸子 高平尚子 佐藤麗	①研修会の報告  ②反省等意見出し  ③日本語ボランティア入門講座について (平成24年度開催)	研修会でよかった点、悪かった点の意見交換。 平成24年度開催予定の入門講座へのつなげ方を検討。

## 【写真】

運営委員会の様子



### 3 養成講座の内容について

- (1) 講座名 日本語ボランティア研修会
- (2) 目標
  - ①東日本大震災の発生等、日々変化する日本語学習のニーズを知り、受講生同士で話し合い、今後必要になってくる日本語学習サポートを考える。
  - ②マンツーマンで日本語学習をサポートするためのコツを学び、各自の活動につなげていく。
- (3) 受講者の総数 57 人  
(出身・国籍別内訳 日本：57人)  
開催時間数(回数) 21 時間 (3回)
- (4) 参加対象者の要件  
仙台市内または近郊で活動している日本語ボランティア（各回公募）
- (5) 受講者の募集方法  
当協会登録日本語ボランティアへ広報チラシの配布、メールで呼びかけのほか、仙台市内公共施設及び日本語ボランティアの活動している団体などへ募集チラシ・ポスターを送付。ホームページへの掲載等。
- (7) 会場  
仙台国際センター 交流コーナー内 研修室
- (8) 使用した教材・リソース  
講師が作成したパワーポイント中心
- (9) 講座内容

回	日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
第1回	8月28日 10:00～ 16:00	日本語ボランティア研修会「今後の仙台における日本語学習サポートを考える」	宮城教育大学教授 市瀬 智紀氏 [補助講師] 宮城教育大学留学生 玉 紅 氏 主婦 ルーマ ビシュワス 氏	32名

第 2 回	10月15日 10:00～ 15:00	日本語ボランティア研修会 日本語ボランティア活動のコツ -学習者の疑問にどう答える？- (助詞編)	宮城教育大学准教授 高橋 亜紀子 氏  [補助講師] 東北大学留学生 イスラム アミヌル氏 主婦 ペリヤサミー ナンディ氏	17名
	10月16日 10:00～ 15:00	日本語ボランティア研修会 日本語ボランティア活動のコツ -学習者の疑問にどう答える？- (助詞編・あいまいな表現編)	宮城教育大学准教授 高橋 亜紀子 氏	15名
第 3 回	12月3日 10:00～ 15:00	日本語ボランティア活動のコツ -日本語の特徴をつかむための ヒント-(会話編)	仙台ランゲージスクール 専任講師 猪狩 哲郎 氏	24名
	12月4日 10:00～ 15:00	日本語ボランティア活動のコツ -日本語の特徴をつかむための ヒント-(文法・語彙・音声編)	仙台ランゲージスクール 専任講師 猪狩 哲郎 氏	21名

### 【写真】

#### 研修会の様子

[8/28(第1回目)]



(講師の市瀬氏の講義)



(外国人学習者からの学習体験談)

[10/15,16 (第2回目)]



(アイスブレイキングの様子)



(グループワークで情報共有)

[12/3,4(第3回目)]



(講師の猪狩氏より問題提示)



(問題の解決策をグループで話し合い)

(10) 講座の評価

①受講生に対するアンケート(抜粋)

[8/28(第1回目)]

- ・ これまで外国人には楽しく日本語のおおよそを理解してもらえればと思ってきたが、地震の際必要な準備と情報に伝えておくべきだったと反省。今後伝えていきたい。
- ・ 災害時外国人だからという意識ではなく、人間同士互いに助け合うという考え方でとに生きるためには必然的に人間の本音で生きていかねばと再認識した。
- ・ 悩むほどでなくとも、未解決のままにしていたことを、今日すっきりさせてもらった。

[10/15,16(第2回目)]

- ・ あやふやなままだった部分、いかに教えたらいいか、日ごろ悩んでいたことについても教え方のポイントがわかった。
- ・ たくさんのボランティアが集まって、教える中での疑問をどう解決するかなど、具体的に話し合い、交流を深めることはとても意味深い。生きた学習としてこの機会を大事にしたい。
- ・ 2日間は参加しにくいので、1日だけにしてほしい。

[12/3,4(第3回目)]

- ・ 疑問に思っていることをグループで話し合えた。それぞれ努力しながら学習者に対応していることがわかった。
- ・ マンツーマンでサポートするための非常にためになるヒントをもらった。
- ・ 問題視していなかった点を取り上げてもらい、気づかない注意点を見出すことができた。今後も研修会に参加したい。

②実施主体からの研修内容結果評価

これまでの研修会では座学が多く、“実践”よりも“講義”形式のものが多かった。本研修会では、参加者同士で話し合いながら解決に導いていくワークショップ型をとった。これは、日頃個人で活動している当協会登録ボランティアならではの悩み(たとえ

ば、相談する相手がいない・この教え方でいいものか自信がない等)を受けて企画した。そのため、参加者から「参考になった」という意見が多かった。

アンケートからは、「他の人の考えやどんな活動をしているか知ることができた。」「実際に抱えた問題、体験したことなどが中心だったので興味深く、スムーズに研修会に溶け込むことができた」などの意見が多数あった。

一方、日程や開講時間に対する要望も少なくなかった。今後も、内容や開講スケジュールも含めて引き続き検討していきたいと考える。

### ③実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

日本語学習に関わる事業のみならず、外国人と日本人がより住みやすい環境づくりを整備するため、広範囲のネットワークづくりを進めるほか、「多文化共生」の理解を深めていきたい。

## (11) 事業の成果

### ① 他事業との連携

○当協会に登録し、日本語ボランティアとして活動する人材育成のための講座(以下入門講座)に今回の研修会の結果を反映させ、より実践的で役立つ講座の開講を目指す。

○運営委員である団体・個人と、研修会や入門講座で連携し、市内の日本語ボランティアのネットワークづくりをより強化していく。

○他のボランティア(災害時言語ボランティア、サポートボランティア)と情報交換をする機会を設け、交流を促す。

\* 災害時言語ボランティア: 災害時、言葉を通して外国人をサポートするボランティア

\* サポートボランティア: 当協会事業の企画、運営をサポートするボランティア

### ② 研修後の人材活用

当協会に登録する日本語ボランティアは、マンツーマンによる日本語学習サポートを行っているため、各自活動の中で実践に生かしてもらうことが人材活用となると考える。また、長年活動を行い、教室運営に興味のある日本語ボランティアに対しては、運営に関わる講座やスキルアップ講座の紹介を行うなど、活動の幅を広げやすいよう、サポートしていきたい。

## (12) 今後の課題

東日本大震災が発生し、多くの外国人が仙台・東北を離れ、新たに留学や居住を希望してくる外国人は例年に比べ少ない状況である。

しかしながら、このような状況下にあっても、仙台にとどまり生活をしている外国人や一度仙台を離れたが、仙台に戻り元の生活を送っている外国人も少なくない。そのような方々に対して、また新たに來る外国人を迎え入れるためにも、外国人・日本人が住みやすい街づくりを目指す必要がある。

日本語ボランティアは、外国人が仙台で生活するために必要な「日本語学習」をサポートするための身近な存在である。気軽な相談相手であり、外国人がより地域に溶け込むためのサポーターであるため、活動しやすい環境づくりや人材育成を強化し

ていきたい。市内には、小さな子供を抱える等日本語学習の機会が少ない外国人も在住する。そのため気軽に日本語学習できる仕組みづくりをすることも、一層強化していく必要があると考える。